

報恩講厳修の御報告と御礼

報恩に休息なければ

歳の朝
(句 仏上人)

二〇〇九年の当院報恩講も信悟院殿御参修、池田勇諦師御講師のもと多数の御参勤、御参詣を賜わり厳修することができましたこと、何よりの喜びであります。

真宗教団は「報恩講にはじまり、報恩講におわる」と言われるように、真宗の御法座は報恩講を中心として開かれていることである。報恩講は「しななければならぬ法要」ではなく「せずにおれない法要」として厳修されているはずである。しかしながら、報恩講が近づくとか何かしら急ぎたてられた義務感に煽られているような気になるのは私だけであろうか。どこかで名ばかりの形式的な報恩講をお勤めしている私が恥ずかしくなる。

報恩講をお勤めしたから報恩ができたというのではなく、報じても報じきれない大恩に出遇うこと。それは、義務感に駆られながらしか報恩講が厳修できない私が、どこまでもどこまでも問われ続けていく仏事であるように念う。
それを句 仏上人は「報恩に休息なし」と、この私に示されていることではないか。

山城第二組坊守研修会

二〇〇九年十月二日、当院本堂において、山城第二組坊守研修会で立花の学習会が実施されました。

山城第二組願隆寺住職小早川紀師を講師とし、立花の由来と願いを講義の後、立花の手法を示され、その後三人一組で実習を行いました。

(立花中の講師)



(皆で立花)



講師の立花

山城第二組 落語と中国琵琶の夕べ

毎年、恒例となった山城第二組主催の落語の会が、二〇〇九年十月六日、中国琵琶の演奏と共に当院本堂で催されました。

満堂のご参詣の皆様は、小学五年生のさくらさんによる琵琶の演奏と、桂都丸さんの落語を大いに楽しまれました。



さくらさん



桂都丸さん

鏡池だより

新年のご挨拶



大 福田 輪番

第2号
平成22年
(2010年)
1月・2月・3月
新春号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

「道徳、念仏もうさるべし」

「道徳はいくつになるぞ、道徳、念仏もうさるべし」(蓮如上人御一代記聞書)これは、正月一日に道徳という門弟が蓮如上人に御会いされた時の蓮如上人の御言葉である。

私も五十歳。「人生、五十年」とは昔のこととはいうけれど、疲れが取れ難い／飲んだ酒がぬけ難い／今まで何気なく持っていた重いものが持てない等々、五十年生きてきたことが我が身を通過して痛感させられる今日この頃である。

「今年で九十歳だが、よく先達が言われていた、腰が痛い／膝が痛くて曲がらんといいことを最近、我が身を通して感ぜられるようになってきた」とは、和田桐師のお言葉である。

腰が痛い／膝が痛いと言わなくなるのも私、そのことの実状をわが身で受け止め、腰が膝が普通に曲がるのが当たり前で生きてきた事実に出遇うのも私である。人生の苦も楽もすべてを通してその瞬間瞬間にどうにもならん我が身の事実に出遇わせていただくそのことがお念仏を申すということではなからうか。

蓮如上人はこのことを道徳に語られたのであろう。今年も多くの方々と仏法聴聞できる年にしたいものである。

分陀利華

凍ってませんか 身も心も

罪障功德の体となる

「こおりとみずのごとくにて

こおりおおきにみずおおし

さわりおおきに徳おおし

(高僧和讃)



玄関の薪ストーブ

当院では十一月十九日に薪ストーブを設置し、庭園の剪定した樹木で暖をとっています。残木の処理費を軽減すること、暖房費軽減を目的としていたのですが、来院の皆様方が珍しそうに暖をとっておられるのを見て、私自身何か心が和むのを憶えました。私が、昨年までお世話になっていた北海道には冬の味覚はたくさんありますが、北海道の冬のごちそうは暖をとることであるように思います。薪ストーブを囲んで人が集まり、乾物を焙り、会話が始まる。これぞ北海道の風物詩です。

何もかもが凝り固まって、氷のようになっていた私の生きざまも、暖を囲んで語り合っていく語らいの中で暖めてみたいものです。

暖を求め、語り合いを求めて、是非当院に御来院下さい。お待ちしております。

3月23日 9時半	3月13日 9時半	3月3日 9時半	2月23日 9時半	2月13日 9時半	2月3日 9時半	1月23日 9時半	1月13日 10時	1月3日 10時
彼岸会・永代経	瑞蓮寺住職 浅井仁磨師	彼岸会・永代経	泉徳寺住職 柳山信師	樹洩陽舎主幹 栖雲 深泥師	樹洩陽舎主幹 味読「正信偈」	圓長寺住職 加田岡隆 昭師	修正会	修正会
岡崎別院輪番	岡崎別院輪番	岡崎別院輪番	二品 正親師	岡崎別院輪番	岡崎別院輪番	岡崎別院輪番	岡崎別院輪番	岡崎別院輪番

法座のご案内

別院往来 ~別院にご参詣の団体名~

29日	28日	28日	27日	27日	26日	26日	26日	25日	25日	24日	23日	19日	16日	15日	13日	11日	10日	11月4日	31日	27日	16日	13日	13日	9日	1日	10月1日	30日	30日	16日	9月2日	
奥羽教区 真宗本願報恩講奉仕団様	福井教区第8組 超恩寺参拝団様	大垣教区第11組 徳法寺様	京都教区因伯組 真光寺様	岡崎教区第14組 北部寺院様	岡崎教区第23組 門徒会様	三条教区第22組 善行寺様	岡崎教区第6組 専覚寺様	本願寺派 奈良 浄福寺仏教婦人会様	岐阜教区 正嚴寺様	京都教区近江第1組 響忍寺様	難波別院 銀杏の会様	久留米教区 大福寺様	高岡教区第4組 妙蓮寺様	本願寺派 北九州 光円寺様	山陽教区第7組 光円寺様	北海道教区 第16組様	本願寺派 広島 善龍寺旅行団様	京都教務所様	興正派 大阪 教蓮寺仏教婦人会様	本派 岡山 源照寺様	久留米教区八女1組 門徒会様	鹿兒島教区 明信寺様	本派 北豊教区 門司組坊守会	本派 奈良 正覚寺仏教婦人会様	本派 鳥取 光賢寺様	久留米教区 眞教寺様	長崎教区第1組 光西寺様	大阪教区 眞宗協和会様	大阪教区第21組 しらさぎ同朋の会様	本派 熊本教区様	仙台教区気仙組 西光寺様
7名	41名	52名	17名	81名	36名	22名	41名	20名	43名	16名	43名	10名	25名	43名	38名	39名	20名	26名	25名	25名	12名	8名	9名	17名	20名	14名	21名	15名	200名	20名	18名

ここにこの人



別院門徒 杉原 富次氏

おらが寺

私と別院との関わりは、生涯を通じてのことです。三歳の時に曾祖父に手を引かれて来たのを今もなお刻銘に覚えております。その後、子供会にも入り、やがて別院から頂いた小さな三つ折りご本尊を懐に入れ戦地に赴きました。やがて終戦を迎え会社に勤務しながら別院との関わりが続き、書院・御殿の焼失からの復興の折には、御門徒に募財のお願いを協力させていただく一方で、別院の役員や三日講の参詣者が一人でも増えていただきたいという願いで、微力ながら尽力させていただきます。

お寺との関わりは、揺りかごから墓場までと言われておりますが、このような歩みができるのも曾祖父からの願いの伝承であると確信いたしております。

尚、願わくは、お一人でも多くの方々に聴聞いただきたい。その一語に尽きる事です。

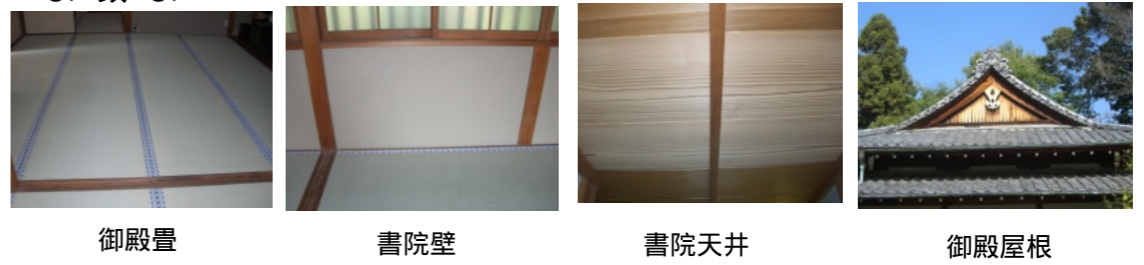
梅香記 別院の近況報告



大谷専修学院・学習会同窓生・青草びとの会様より多額の寄付金を頂戴し、二〇〇九年十月、書院の台所・お手洗いの修繕、玄関サツシの取替え工事をいたしました。

また以前より雨漏りのあった書院・御殿の瓦・天井・壁の修繕、畳の張替、境内枯れ松の伐採を本山から特別助成により改修させていただきました。

ご協力いただきました関係各位には改めて御礼申し上げます。



OA機器一式ご寄贈

二〇〇九年十二月、中川専精様よりパソコン、プリンター2機、デジタルカメラ等、OA機器の寄贈を賜りました。それに伴い当院の電気施設環境の整備として分電盤の改修、新規設置、コンセント増設工事を専修学院・青草びとの会様の追加募金により施工させていただきました。

